



フランスから調査団

フランスの民間団体「CRIIRAD」(クリラッド)が各地で独自に放射能検査。(5/25、磯原町木皿地内にて)

原発事故

早期収束と損害賠償を求め 市が署名活動

北茨城市当局は、東京電力に対して原発事故の早期収束と被害補償を求める署名活動を始めました。3月に起きた福島第一原発の事故は、2ヶ月半が過ぎた現在も未だ収束のめどは立たず、市民生活に放射能汚染による不安をもたらし、農畜産業、水産業、観光関連業など多方面に大きな打撃を与えています。当市では、いち早く



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

5月22日、市観光協会が主催する「きたいばらき元気市」が開かれ、約7千の人数でにぎわいました。市サッカーリーグ場には、市役所はじめ協賛する各業者団体、市民グループのテントが46区画にわたって並びました。午前中は好天に恵まれ、会場そこそこで、お互いの安否確認や近況報告、情報を交換する姿が見られました。また業者さんどうし、それぞれの苦境を出しあい、再開・再興

きたいばらき元気市

3月、市長と市議会の総意で東電に対し抗議の決議を出しました。また農協、漁協など生産者団体では県ごとに賠償請求をおこなっています。5月2日には市内の商業、観光、飲食店などの各組合9組織が市長とともに、県知事と東電に対して抗議と要望を出しています。

を語りあっています。農水産品など飛ぶように買い求められ、支援物資も3千セットがちょうど配布終了となるころに、お昼を知らせるサイレン。午後は降雨でお開きとなりましたが、市民どうしが励まし合い、文字どおり元気を交換する場となりました。



営業を再開したホテルのほか、まだ見通しはたっていないものの「前進中」のホテルの女将さんも「久々ですよ」と和服姿で参加。

なお当日は、売上げからの寄付をあわせ約21万円の義援金が寄せられました。また衣料品などの支給場所となった市民体育館では、右記の署名も集められました。

福島原発事故の早期収束と被害に対する補償を求める署名

趣意書

北茨城市は3月11日に起きた東日本大震災で、死者・行方不明者合わせて6名の尊い命と、1,200戸にもおよぶ家庭の全・半壊など大変な被害を受けてしまった。震災とはいえ、あまりにも突然の出来事に一時は言葉も失い、絶望の淵に追いやられたが、私たち北茨城市民は、みんなで力を合わせて未曾有の災禍から立ち上がりようとしている。しかしながら私たちが復興への第1歩を踏み出そうとしたその矢先に、今回の東京電力福島原子力発電所での原子力事故は起きた。予想を超えた自然の猛威によるものとはいえ、日本の原子力発電所の安全対策は世界に誇れるものという過信と、危機管理の甘さや経済性優先の構造とが重なって今回の事故は引き起こされたものと言わざるを得ず、加えて一連のベント作業や原子炉の冷却作業、放射性汚染水の海洋放出など事後の対応のまずさが、さらに私たちの環境を悪化させ復興への大きな障害となっている。

とりわけ放射性物質の空中飛散によりホウレンソウの出荷制限がまだに解除されていないなど農畜産物への影響が大きく、農業者はもとより新鮮な地場の農産物を消費している市民の先行き不安も膨らみつつある。また最悪の事態を回避するためという大義のもと、関係者に事前は何の連絡もなく行われた放射性汚染水の海洋放出により、「豊饒の海」が「放射能の海」へと一変し、沖合・沿岸漁業が出荷制限や出漁自粛などを余儀なくされ、漁業者はもとより水産加工業者などの水産関連業、民宿・旅館業者、飲食業者などの観光関連業に至るまで、多くの関係者の生活に大きな打撃を与えている。

もちろん原発直近の立入制限地域や計画的避難地域は、その深刻さにおいて当市とは比べものにならないものであるが、一日も早く復興し、平穏な生活を戻りたいという思いはどこも同じである。

ここに私たちは、東京電力に対し、福島原子力発電所事故の早期収束と、そのための確固たる道筋及び正しい情報の提供を求めるとともに、風評被害も含めてさまざまな被害に見舞われた関係者への補償などが早期適正に行われるよう市民総意の署名を添えて強く要請する。

東京電力株式会社
代表取締役社長 清水 正 孝 様

今回の署名活動は、市として市内各団体にも協力をお願いし、改めて事故の収束と早期適正な補償を要請する取り組みです。

「布川事件」

えん罪「布川事件」のニュースがかけめぐりました。かねてから党市議

「今度の地震、津波、原発のトリプル災害、大変だと思えます。(中略)北茨城市でお手伝い出来ることはありますか。何を用意して、どこへ行けば良いですか。ご多用中、申し訳ありませんが、ご指示ください。判決が延期で余裕がありませんので、何でもやります。ご連絡をお待ちしています」

したが、まだ再審のゆくえも見えなかった10年ほど前、交流会での桜井昌司さんの短くも重い言葉が印象に残っています。

「この場を借りて改めてお礼と、そして祝福を申し上げます」

「もし再審が開始され無罪が証明されても、10人中3人は「うまいことやった」と言うかもしれない。しかし逆に再審が認められなかったとしても、「あいつは本当の犯人ではない」とわかって

もらえようかなそんな生き方をしていきたい」大震災後、桜井さんから、裁判が延期されたという事で次のようなお申し出をいただきました。

一歩一歩けんめいに被災者支援と災害復旧

5月26日現在

- 全・半壊戸数 1252
 - り災証明申請 申請 5704 証明書発送 4832 再調査依頼分も順次調査中
 - 被災者向けの住宅は207戸、178戸が入居。空きが出れば、他県からの避難者を受け入れ予定
 - 損壊家屋(木造)の解体は、市内各地域を13区分し、順次作業。
 - 震災総合窓口は市役所2階
これまでの相談数 1721人 2480件
 - 災害ボランティアは社会福祉協議会で受付
 - 毎週1回の放射線測定地として、学校校庭と公園のほか、私立幼稚園、市立・認可保育所、児童施設の園庭を追加。
- ※ 市HPで「災害・支援情報」「放射能情報」